

## 第三次安倍内閣に望む

平成26年12月17日  
日本商工会議所

わが国経済は、安倍内閣の経済政策によりデフレ脱却の兆しを見せている。アベノミクスをさらに推し進め、中小企業や地方にまで景気回復の波を行き渡らせ、デフレ経済から成長経済への流れを確実なものとしていくことが、今般の衆議院選挙で国民の負託を得た新内閣の責務である。

新内閣は、次の三点を政策運営の基本的な考え方として、具体的な改革の工程表を国民に明示し、日本経済の再生に向けた改革に邁進されたい。

まず、第一に、わが国の国益を踏まえ、困難な課題を克服して成長力の向上に向けた取組みを加速化させることである。経済再生と財政再建の両立に配慮し、消費税率10%への引き上げを見据えて、2年以内に確実に経済を再生させることが必要である。

第二に、人口急減と超高齢化の加速、疲弊する地方の再生という構造的な課題に対し、総力を結集して取り組むことである。大胆な少子化対策の実行、地方創生と中小・中堅企業の活力強化により、中長期的な成長基盤を強化していくことが不可欠である。

第三に、震災復興の加速と福島再生である。平成27年度までとされている集中復興期間の延長と十分な予算措置により、被災地企業の事業再開をはじめ、復興の状況を見据えた細やかな支援を強力に進めるとともに、風評と風化の二つの「風」に苦しむ福島の再生に向け、除染や汚染水問題の早期解決、企業立地の促進や販路開拓支援の強化が必要である。

これらの基本的な考え方のもと、新内閣におかれては、具体的な政策課題として、以下の事項に取り組んでいただきたい。商工会議所としても、実現に向けて自ら行動するとともに、政府に対し最大限の協力を行う所存である。

### 1. 大胆な経済対策・補正予算の策定・実施と法人税のネット減税の実現

円安によるコストアップに直面している中小企業や地域経済の影響を最小限化することが喫緊の課題である。低迷する消費の喚起や経済波及効果の高い住宅対策をはじめ、大胆な経済対策とその実行を裏打ちする補正予算を早期に編成すべきである。また、企業に新規設備投資や雇用の拡大を促すため、ネット減税となる法人実効税率の引き下げとともに、政府は、インフラの整備やエネルギー・環境分野をはじめとする先端技術の開発など、中長期的なプロジェクトの方針を明示することが必要である。

### 2. 成長戦略の強力な実行による事業環境の整備の促進

デフレ脱却を確実なものとするためには、足元の経済対策のみならず、わ

が国の潜在成長率の向上に向けた不断の取組みが不可欠である。成長戦略は実行段階に入っており、生産性の向上をはじめとする民間企業の取組みが極めて重要である。政府は、そうした民間の活動を後押しする環境整備を強力に進めるべきである。

とりわけ、円安に対する対応力を高めていくことが重要である。企業の国内回帰を促し、わが国の輸出競争力を高めて、貿易赤字の縮小を図ることが肝要であり、安全が確認された原発の一刻も早い再稼働、TPPの早期交渉妥結、規制改革の断行や国家戦略特区をはじめ特区制度の拡充による新市場の創出などに大胆に取り組むべきである。

### **3. 抜本的な人口減少対策、地方創生とそれを支える中小・中堅企業の活力強化**

人口急減、超高齢化に直面しているわが国は、人口1億人の維持に向け、女性と高齢者の活躍推進、結婚・出生率向上に向けた環境整備など、従来の価値観や慣習にとらわれない、抜本的な人口減少対策を講じなければならない。

特に、地方の疲弊と人口減少は表裏一体の関係にある。地方の人口急減、都市部や東京への人口流出に歯止めをかけるためには、地方に「しごと」が生まれることが必要であり、地域の強みである農林水産業や観光資源の最大限の有効活用をはじめ、地域の成長戦略にスピーディーに取り組むべきである。また、コンパクトで賑わいのある「まちづくり」を推進していかなければならない。

同時に、地方の創生を担う中小・中堅企業のイノベーションを促進していくことが不可欠である。創業、ものづくりの応援や販路開拓、海外展開、産学官連携等を支援するとともに、外形標準課税の適用拡大は、中小企業の活力を阻害することから、反対である。

### **4. 社会保障制度改革の断行**

消費税率の引き上げ延期を踏まえれば、持続可能な社会保障制度の確立に向けた改革は、より一層強化していかなければならない。社会保障給付の重点化・効率化を軸とした改革の断行はもとより、高齢者の応能負担割合を高めるなど、痛みを伴う改革に取り組むことが必要である。

消費税の複数税率・インボイス導入については、社会保障財源を毀損することはもとより、対象品目の線引きの混乱、中小企業の事務負担の増加などの問題があり、行うべきではない。

以上